

2002-1-16

中村嘉孝

地球規模で考え、地域の環境のために行動しよう (Think Globally, Act Locally)

1. 個人としてどうしたらよいか

(1) 私たち一人一人が地球に影響を与える時代になった

それは具体的には、「地球温暖化」、「オゾン層を破壊する化学物質」、「大気汚染」、「水資源汚染」、「海洋汚染」、「森林破壊」、「生物の多様性の保護」、「大量に発生する各種廃棄物」、「環境ホルモン」、「エネルギーの大量消費」などと呼ばれている各種の問題です。

(この点に関して、会員より“戦争も地球環境を悪化させる元凶の一つではないか”との指摘があった。私としては、地球環境問題を“工業化社会の成熟段階で生じた問題”と定義付けているので、戦争は戦争として議論すべきだと思っています)

地球にこれらの問題が発生しているぞ、早くなんとかしないと地球はだめになってしまうぞ、と警告が寄せられています。

どうやらこれは本当らしい。地球と人類の将来がどうなるのか？私たちは大きな不安に直面しています。

けれども、地球を救うために、私たち個人個人はどうしたらよいのでしょうか？

私はこの点に焦点を当ててみたいと思います。

地球規模でみれば小さなチリのような個人の存在が、地球全体の問題に直接関わっているとはなかなか考えにくいのです。われわれ人類を育ててくれたこの惑星に対して、かなりひどいことをしているといわれても、実感が湧かないのが本音ではないでしょうか？

けれども、私たち個人個人の存在をそのように小さいものとして考える時代はすでに過ぎ去りつつあるようです。

小さなチリのような存在がまさに眼に見えないビールのように地球に影響を与えている時代になったようです。

(2) 地球温暖化と個人の生活

たとえば、地球温暖化問題の対策として、1997年12月のCOP3(気候変動枠組条約第3回締約国会議)で採択された京都議定書が発効するので、日本政府として、わが国が2008年から2012年の間に二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を1990年の排出量をベースとしてさらに6%削減することになりました。

雑誌「かんきょう」の2001年10月号によれば、99年度の日本の温室効果ガスの発生量は13億7000万トンで、前年比約2.1%の増加、京都議定書の規定による基準年90年比約6.8%増となっています。

それゆえ99年度をベースとすれば、2008年から2012年の間に単純計算でも90年度ベースの12.8%を減少させなければならないこととなります。99年以降二酸化炭素の排出量が横ばいであったとしても、日本が実際に履行しなければならない削減量は6%ではなくすでに12.8%なのです。

日本政府は98年12月に「地球温暖化対策推進大綱」を作成し、

省エネルギーの促進、新エネルギーの導入、原子力発電所立地の促進

二酸化炭素排出の少ない都市・地域構造の形成

森林整備・都市緑化等の推進

温室効果ガスの排出権取引等の国際的枠組の構築、途上国との取組強化

夏時間の導入、自転車の利用促進などライフスタイルの見直し

などを打ち出しました。

さらに99年4月に施行された「地球温暖化対策推進法」は国、地方公共団体、事業者、国民が負うべき責務について、その原則をさだめています。

これらに基づき近い将来さらに細かい行動規定が発表されることになりそうです。

私ども個人個人がいよいよ地球温暖化に一人一人真剣に立ち向かわなければならない時代にきています。

13億7000万トンを人口で割ると一人当たり10,822キログラムになります。この数字の中には工場や発電所が出す二酸化炭素も含まれているのですが、私たちが工場の製品を買ったり、電気を使ったりしているのですから、やはり関係があるわけです。

今後省エネやライフスタイルの見直しやら、やるべきことはいろいろあるようです。それこそ本気になって、国内、海外を問わずお互いに植林に励まなければならない時代が来るのでしょうか？

(3) 廃棄物とどう付き合うか

廃棄物の問題についてはどうでしょうか？

統計数字によると、1998年度の日本全体の廃棄物の内訳は一般（家庭用）廃棄物が5412万トンに対して、産業廃棄物が4億8000万トンです。

(環境省資料より)

一般廃棄物の5412万トンを98年末の日本の人口1億2659万人で割りますと一人当たり年間427.5キログラムとなります。一人当たり一日1,170グラムのゴミを出していることとなります。

それでは私の住んでいる武蔵野市の場合はどうかということ、たまたま「月間廃棄物」2001年8月号に土屋市長が説明していて、99年度で各個人一日一人当たり1129グラムとのこと。年度が一年違いますが全国平均より若干少ないというところ。す。

一人当たり一日1170グラムでも、一億三千万人となるとまさに「チリも積もれば

山となる」と言うことになります。

さて全国ベースに戻って産業廃棄物の量をみると一般廃棄物の約9倍です。国民一人あたりにすると年間約3800キログラムとかなり多くなります。そしてこの中には建築廃材とか自動車の廃車分とか電気製品とかの廃棄で個人が関与している部分がかかなりあると思います。

私たちとしてどう減らすべきかの問題がここでも問われています。

(この点に関し、最近生ゴミから有機肥料を作る家庭用器具が、いろいろ改良されているので活用してはどうかとの提案があった。家庭が出す生ゴミの量1170グラム/日のうちのかなりの部分を占めていると思われ、生ゴミを家庭内で処理するのは有効な方法だと思えます。私もこの提案を真摯に受け止め、現在勉強中です)

2. 私たち個人個人ができること

(1) チリを減らして山を小さくする

このように地球環境問題を個人の次元に戻して、はて一体どうしたら地球を守り、持続可能な開発に協力できるのかということになります。

以上を踏まえて私なりに言いたいことは、個人としてできることは、たしかに全体に比べ殆ど無視できるような数字である。しかし、すべての個人が例えばゴミを10%減らすと一般廃棄物の5412万トンが4870万トンに減少することにもなるわけです。これが50%減なら、2,706万トンになるわけです。

全員が「自分ひとりどうやっても知れている」と思うか、「自分ひとりの努力が日本全体では大変な量になる」と思うか、です。

(2) 車のアイドリングをやめよう

細かいことの積み重ねとして、もう一つ提案があります。

二酸化炭素排出の減少という問題です。

それは、車を停めている間にアイドリングすること(エンジンをかけっぱなしにすること)をみんなでやめよう、ということです。

私たちはだれでもドライブしていて、自分でも気がつかないうちに、車のエンジンを停めても一向差し支えないときでも、なんとなくかけっぱなしにしていることがよくあります。

ところがヨーロッパではアイドリング禁止の国が多いのです。数年前イタリアへ行った時、暑い日だったのですが、駐車場に待っていたバスはエンジンを止めていました。聞いてみると、アイドリングは法律で禁止されているとのことでした。

私は大変感心して帰国後早速石原東京都知事に手紙を書いて、アイドリング規制を提案しました。

その結果がどうか分かりませんが、東京都は事業用の車のアイドリング禁止規制を決

めました。

最近では、アイドリングを減らすとガソリン代がかなり節約できるとして、運送会社などが積極的に導入していると聞いています。

交差点でいちいちエンジンを止めるのは大変厄介ですが、最近では停車すると自動的にエンジンストップする車も出回りつつあるとのこと。

これは二酸化炭素の排出を減らす有効な手段のひとつではないかと思います。

(3) 武蔵野市の「一斉清掃活動」に参加して思うこと

清掃活動で気持ちが高揚した

2001年11月下旬の日曜日の朝、武蔵野市主催で吉祥寺駅、三鷹駅、武蔵境駅周辺をきれいにするボランティア活動に参加してみました。私は三鷹駅に行きました。行ってみると、私の予想以上に大勢の市民が集まっていました。街をきれいにしたいと思っている人々が多いのだなと思った次第です。

グリーンのたすき、手袋、燃やせるゴミ、燃やせないゴミそれぞれをいれるプラスチック袋などが支給され、約90分ゴミ拾いをしましたが、正直なにか自分が今まで迷っていたことを払拭できたような気がしました。拾っていて、気持ちが高揚してくるので、タカがゴミ拾い、されどゴミ拾い、といった感じでした。

私が子供のころ、町に「バタやさん」という職業の人々がいました。背中に大きなザルを背負ってゴミを拾って歩いていました。それで生計を立てていたのでしょう。しかし、子供心にも職業としてあまり高級ではないなあと感じていました。

けれども今、たすきをかけて、ゴミを拾っていると、そばを歩いている人々がなんとなく心の中で感謝しているような感じがして、私も「このような仕事が“21世紀の最も尊い仕事のひとつになる”」のではないかと確信しました。

タバコの吸殻の多いのにあきれました。

落ちているゴミの70%が吸殻であったような気がします。

喫煙をしている人々がどういう気持ちで吸殻を捨てているのかなと推測してみました。

ア． 吸殻を平気で捨てるのだから、ほかのゴミも平気で捨てるのだろうか？

イ． それとも吸殻はゴミではないと思っているのだろうか？

ウ． このような人々は地球環境問題をどう考えているのだろうか？

ゴミを拾ったからといって、それで地球環境に大いに貢献しているとは思えないが、「環境にやさしいライフスタイル」を体感できる点で、やってみてよかったと思った次第です。

日本中のみんながゴミを拾う人になり、捨てる人がゼロになったらどうでしょうか？そういう世界はこれまでは考えられなかったが、これからは実現可能ではないかと期待しています。

ゴミを拾うことの迷い

もう一つ、ゴミを拾うという行動で気になっていることがあります。

たとえば、電車の中で誰かが置いていった缶コーヒーの空き缶を気になって取り上げてゴミ箱まで持って行こうと思うとき、「ひょっとすると、まわりの人たちから、他人が捨てた缶ではなく、自分が飲んだあとの空き缶だと思われてしまうのではないか」とつい思ってしまって、動けなくなってしまいます。

ゴミも拾った時点からすでに自分のものなのか他人のものなのか区別がつかなくなってしまいます。

だから、武蔵野市主催のゴミ拾いでは、ちゃんとタスキをかけて、「他人が捨てたゴミを拾っているのだ」と意思表示するのです。

タスキもなにもないと、この辺の区別がつきません。

このことをどう解決したらいいか、まだいい案を持っていません。

いちいちタスキをかけるのでは大変です。

どなたか、いいアイデアがあったら教えてください。

3. 地球的規模で考えていること

(1) いまさら生活を昔に戻せない

地球環境問題は工業化社会の成熟とともに発生したと言われていますが、そうかと言って「それでは江戸時代のような循環型社会に帰ればいいではないか」という発想もたしかにあり、これはこれで大切にしたい考えですが、現実問題としてまず不可能でしょう。

工業化社会の便利さに慣れてしまった人間はとても元にもどれません。

それゆえ、現在の状況をしっかりと把握して、そこから出発するほかありません。

(2) 科学技術がもたらした問題を科学技術で制する

工業化社会のベースは科学技術の発達です。重化学工業、自動車産業、電気電子産業、繊維工業などは科学技術のお蔭で発展したものです。それが結果的に地球環境に悪影響を与えるようになってしまった。

だからこれらの工業を全部やめて昔に戻ろう、というわけには当然いきません。

とすると解決策は「科学技術が作った罪は科学技術で克服する」という方法です。現にこのような考え方で専門家たちが努力している例がいろいろ出ており、私もこの方向が最も現実的であると思っています。

たとえば、

財団法人環境科学技術研究所が「ゼロエミッション（廃棄物ゼロ）」で生活する実験を始める。（日本経済新聞 2001年12月7日特集記事）

建設廃棄物の再資源化率：国土交通省の発表では、2000年度の建設廃棄物の再利用率が95年度の58%から85%に大幅に上昇した（日本経済新聞朝刊 20

02年1月7日)

東京二十三区清掃一部事務組合は、ゴミ焼却灰を溶融して減量し、路盤材として再利用できる「溶融スラグ」を実用化することとなった。(日本経済新聞 2002年1月16日朝刊)

など毎日新しい試みが報道されています。

そのほか、燃料電池自動車の開発、風力発電の普及、ソーラーエネルギー、の活用とか人類の努力がいろいろ具体化しており、まさに「地球にやさしい科学技術」が21世紀の新しい分野となるのではないのでしょうか。

報告と討議の記録(山本利久)

中村氏は前回の報告と同じ思考で問漬の核心に追っている。そのアプローチは市民社会の主役の一人である個人に焦点を当て、環境問題を考え、行動するあり様を極めて身近なところで、個人的体験を交えて、具体的に掘り下げている。地球環境と個人の生活は決して乖離したのではなく双方向に影響し合う関係にあることを理解し行動することが今や新しい時代認識だと主張している。その上で偶々人が日々の生活を通して、その気になればいくらでも出来る環境対策の事例を挙げている。現代人のモラル、倫理観にも触れながら、非道徳的行動の発生要因にも言及している。

「科学技術がもたらした問題を科学技術で制する」と提唱する報告者の考え方は正しい方向性を指摘したものと言えよう。「江戸時代のような循環型社会への回帰」に関しては、報告者の言うように今更その実現は不可能であるが、そこから、地球環境問題に大きく揺れる現代社会を考える際の、様々なヒントを掴み取ることは可能と思われる。アメリカの生んだ著名な建築家ジェーン・ジェイコブスの有名な言葉「新しいアイデアは古い建物から生まれるが、新しい建物からは決して新しいアイデアは生まれない。」を参考にしてみたい。

報告後の参加者の主な関心事と視点:

- * 個人の環境汚染並びに対策は影響度で見ると産業社会に比べ小さいのではないか?
- * 戦争と環境を議論してはどうか
- * 最新の家庭排出物処理器の性能と経済性
- * アイドリングの実体と実施の効用

コメント(阿部哲夫)

1. 環境問題を誰かの問題として見るのではなく、あくまでも自分の問題として考え、それをどのように実行したらよいかを模索する姿勢に共感しました。全ての問題を自分との関わりで考える、と言うところに市民社会成立ベースがあると思います。最近では、政府が悪い、メディアが悪い、社会が悪い、と言う具合に、悪いことは全部他人、自分には責任がない、と言う風潮が強いので、極力、自分には何ができるのか

という視点で論を進める話に感銘した。

- 2．武蔵野市の活動に参加した経験・感想が報告されていますが、これも大事なこと。昔から、善行を施せばそのことの中自体に報酬が与えられている、といったことが言われていますが、小生にもその経験があります。
- 3．他を批判することの多い小生だけに、自ら実行しようよ、と呼びかけ実行している中村さんの話、心に染みました。ありがとう。

以上